

フィンドレー大学への協定留学 月例報告書（1月分）

フィンドレー大学

平澤美衣奈

（1）はじめに

1月6日に冬休みの旅行から戻り、新学期がすぐに始まりました。前学期とは違い今学期は学部の授業もいくつか取り始めたので、内容が一段と難しくなったのと同時に日々の忙しさも倍増しました。本報告書では1月の学校生活について主に触れていこうと思います。

（2）学校生活

（I）授業について

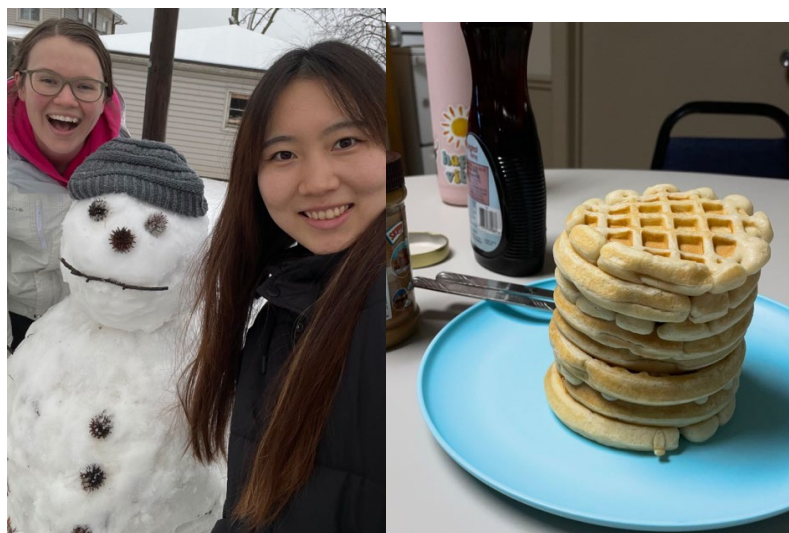
本学からフィンドレー大学へ留学する場合、学費がリーズナブルな IELP（英語学習のコース）の所属が推奨されていますが、そうすると学部の授業数が IELP の単位数を超えることは許されておらず、私たちの履修登録がかなりイレギュラーだったこともあり授業の登録はかなり大変でした。最終的には最低限取りたい授業を組み合わせることが出来たのでよかったです。履修登録

は毎回時間がかかります。私は今学期には IELP のクラスと学部の宗教のクラスとスピーチのクラスをとりました。学部の授業は基本的に現地のアメリカ人学生を対象にしているため留学生だとしても容赦ありません。宗教のクラスは授業ごとに大量の英語の論文を読みミニクイズに答える必要があるため、慣れるのはかなり大変でした。ですが授業自体はとても面白いため、大変でも履修してよかったと思います。

(II) 生活について

フィンドレーは当たり前ですが基本的に浜松よりずっと寒く氷点下は普通です。1月の中旬には1日スノーstormで学校が休みになりました。その日はルームメイトと朝はワッフルを食べ、その後雪だるまを作りました。私は生粋の浜松人のため人生で一度も大きな雪だるまを作ったことがなく、人生初めての“スノーマン”作り体験でした。朝夜は特に冷え込みますが、家やキャンパスが寒すぎるということはないです。

毎日課題や授業に追われる日々ではありますが、ルームメイトとよくジムへ行ったり、料理をしたりするのがとても楽しいです。



(III) 新年会

現地の日本人の先生方主催で、新年会を開催しました。私は枝豆からずんだ餅用のずんだを作りました。アメリカでは日本料理の材料や道具を集めることが難しいため、本来の手順で作ることができず結局ずんだを作るのに3時間近くかかりました。しかし、新年会で日本食不足の日本人留学生から特に好評

だったため作ってよかったです。他にもあんこ餅やお汁粉も頂くことができとても嬉しかったです。新年会では皆で書道をしました。日本人が手分けをしてアメリカ人に書きたい文字や言葉を教えました。できあがった作品は十人十色でとても面白かったです。同時にたくさんの方が日本文化に親しんでくれているのを見て嬉しかったです。



(3) 終わりに

後期に入り時間が過ぎるのが一段と早くなった気がします。後悔のないように残りの4ヶ月も精一杯頑張りたいと思います。